

I 専門分野の技術力を向上

(I) スマート農業への対応力を高める

- ① 環境モニタリング・環境制御型施設園芸（温度・湿度・CO₂・日射量）
 - 野菜：イチゴでの環境モニタリング
 - 花き：カーネーションのEOD冷房による早期出荷技術



パソコンで温室環境を確認する
学生（イチゴ）



タブレットでも環境
データを確認



ヒートポンプでのカーネーション栽培

EOD冷房（日没から開始する短時間の夜間冷房）
（7/8-10/11、日没後4時間、21℃維持）



- ・約5日、開花時期が早まる
- ・茎が太く硬くなる、切り花重が重い等
品質が向上



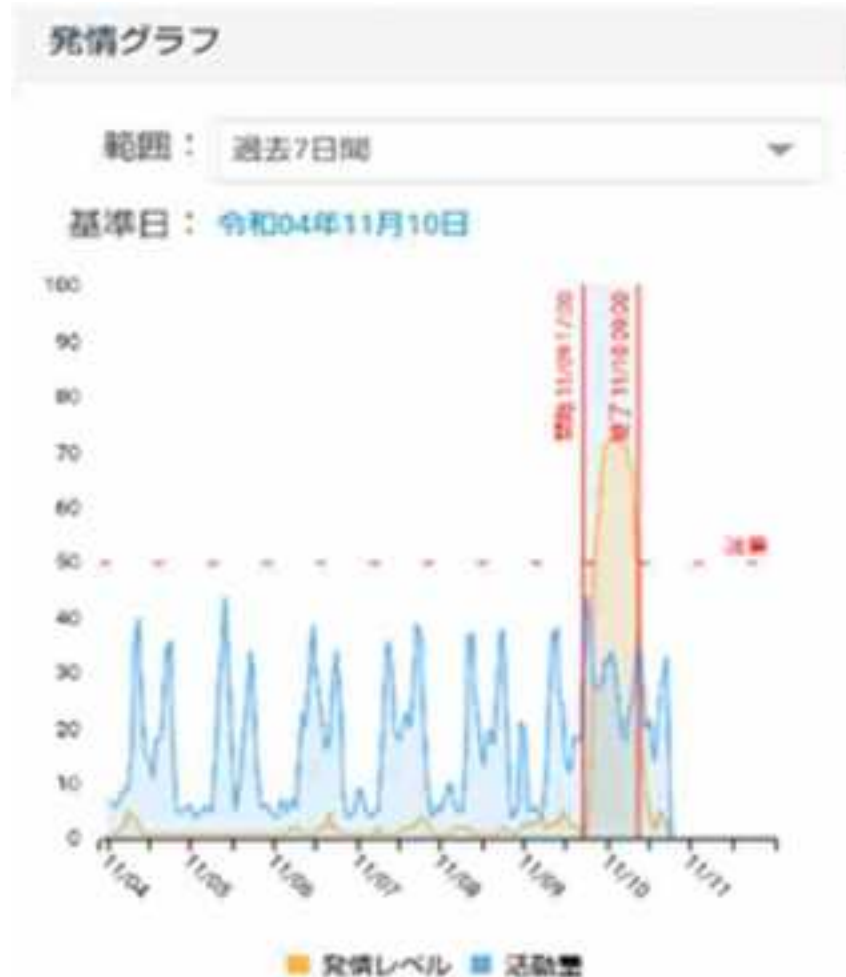
但し、EOD冷房コストに見合った販売
には至らなかった

(1) スマート農業への対応力を高める

②【畜産】 牛の繁殖等に関するセンサーによるデータ管理



(装置を装着した牛)



(発情の通知)

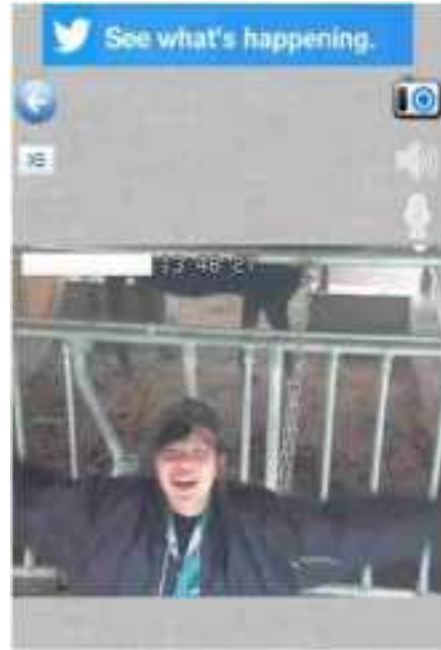


(反すう*低下の通知)

反すう:一度飲み下した食物を口の中に戻し、かみなおして再び飲み込むこと

◆ 分娩監視、発情・疾病兆候検知システム

養牛カメラ(ネットカメラ)



- 牛舎外から
- ①分娩兆候確認による分娩対応
 - ②疾病罹患牛の健康状態確認

カラードプラー超音波診断



触診と卵巣画像により
発情兆候を診断し、
繁殖成績を向上する

(1) スマート農業への対応力を高める

③ 省力化、高精度化

作物・野菜 : GPS機能付きトラクター・田植機、ドローン

現地事例研究 : 水田ほ場水位の自動管理 (加西市玉野町)



ドローン操作活用研修



水位の自動管理



GPS機能付トラクター

(2) 付加価値の高い農業実践力を高める

果樹：大粒系ブドウ品種の特性把握と栽培技術習得

畜産：血中ビタミンA濃度コントロールに基づく神戸ビーフ率の向上



ビタミンA濃度の測定



神戸ビーフ

(2) 付加価値の高い農業実践力を高める

6次産業化：東洋食品工業短期大学（H27年に連携協定）、農産加工組織との連携(トマトケチャップを商品化)



2 現場実践力の養成

(1) 農家等派遣実習を(2年生から)1年生で実施

- ◆ 9/2~10/11(40日間)、11/20 報告会
- ◆ 40日間実施

(コロナ緊急事態宣言によりR3年度は、17日間に短縮)



1学年での実施のねらい

- ◆ 早期に農業の現場を体験させ、農大での学びに生かす
- ◆ 就農率の向上
- ◆ 2年次では、卒論研究、就職活動との両立が必要

2 現場実践力の養成

(2) インターンシップ(就農体験)を促進

- ◆ひょうご農林機構等の事業に加え、農大版事業を創設(R3年度)
- ◆同窓会100周年記念基金として助成事業を創設



1年次の農家等派遣実習で得た現場体験を起点として、

- ◆就農先を具体的に検討
- ◆将来のキャリアプランを明確にする
- ◆農大での学びにフィードバック

3 学び:資格の積極的取得



小型建機特別教育



フォークリフト技能講習



農業機械士実技演習



大型特種免許講習



刈払機取り扱い作業者安全衛生教育



ガス溶接



アーク溶接

4 社会力の育成

(1) 学生自治会を基本とした寮生活、イベント企画・実行

① 3年ぶりに収穫祭を開催(11月19・20日)

② コロナ禍での規律ある集団生活を実践

(2) プロジェクト発表等を通じたプレゼン・コミュニケーション力を向上



3年ぶりの収穫祭



全国プロジェクト発表大会(東京都)
優良賞受賞

卒論発表

